



アラビア語は右から読む。上記の言葉は『アッサラーム・アライクム（こんにちは）』という意味の言葉である。日本語では、挨拶をされた側も「こんにちは。」と同じように挨拶を返すが、アラビア語は違う。挨拶を返す側は『ワ・アライクム・サラーム』と、若干言い方が変わる場合がある。

1. サウジアラビアの概要

(1) 自然と気候

サウジアラビア王国、通称サウジアラビアは、アラビア半島の大部分を占める国で、首都はリヤドである。その面積は日本の約6倍といわれている。国土の95%が、砂漠や土漠、岩山から成り立っていて、西の紅海沿岸には、南北に連なるヒジャーズ山脈があり、その高度は北のマディーナ付近で海拔1,200m程度である。タイフ以南ではアッシール山脈と呼ばれる2,000m級の山が立ち並ぶ。この山脈地帯では雨も降り、オアシスが点在している。サウジアラビアの気候は沿岸部、山岳部、内陸部とそれぞれ分かれ特徴をもっている。日本との時差は－6時間である。



(2) 歴史

現在のサウジアラビアは、17世紀にネジド地方から興ったものとされており、現在の人口は約2,920万人と言われている。このうちの約936万人が外国人である。また、全世界12億の信者を有すると言われるイスラム教誕生の地である。

(3) 言語

公用語はアラビア語である。日常生活では英語が通じる。構文は、中学校程度で十分である。ただし、人により訛りが少々あり、聞き取りにくいことが多い。

(4) 産業

世界一の原油埋蔵量をもつ国であり、石油（原油）をアメリカをはじめ世界中に多く輸出している。



イスラム教の聖地メッカにあるカーバ神殿

2. ジッダの概要

(1) 自然と気候

ジッダは、サウジアラビアの西に位置する紅海に面した港町である。港町と言っても首都リヤドに次ぐ第2の大都市で、人口は340万人以上とされている。気候は厳しく、雨は年間を通じて、2、3日しか降らず、降雨量もごくわずかである。酷暑期と言われる5～9月は、外気温が40度以上になる日が多くなる。しかし、学校や住居、大型ショッピングセンター、通称モールなどは冷房完備のため、日常生活をする上で支障はない。また、10月頃になると気温はやや下がり、朝夕は涼しい風が吹き始める。11～3月は平均気温25度前後としのぎやすい気候になる。この頃になると、屋外でスポーツをするにも、さほど暑さが苦にならなくなる。



とにかく暑い。日中の気温は常に30°Cを超える。北海道から派遣された私にとっては、春を通り過ぎて冬から一気に夏を迎えたような感じに思った。それでも、「今年はまだ涼しいほうだ。」と言う人がいて、驚いたことを思い出す。

(2) 歴史

ジッダは、イスラム教の聖地メッカ（発音はマッカ）がすぐ近くにある。もともと寂れた漁村だったが、イスラム教が興って近郊のメッカが聖地になると、巡礼者の中継地点として栄えるようになった。そのため、ハッジと呼ばれる大巡礼の時期になると、ジッダを経由してメッカへ巡礼するため、毎年200万人ものイスラム教徒（ムスリム）が訪れる。その玄関口となるのが、ジッダ港（またはジッダ・イスラム港）や空港（キング・アブドゥルアズィーズ国際空港）である。また、多くの国際機関や金融機関がある経済都市でもあり、世界中から人々が集まり暮らしている。

旧市街には、かつて伝統的な数階建ての住宅や商家が立ち並んでいた。しかし、近代に入りオイルマネーによる大規模開発で取り壊され、高速道路や金融機関などの超高層ビルに姿を変えてしまった。ただ、若い世代は伝統的なものを好む傾向があり、開発から残された古い建築物の多くは今もなお保存されている。



旧市街地に残る建物

(3) イスラム教



男性は“トーブ”と呼ばれる白い民族衣装を、女性は“アバヤ”と呼ばれる黒い民族衣装を主に着用している。その雰囲気当初は戸惑った。しかし、民族衣装を着ずにジーンズなど見慣れた格好をしている男性をよく見かけるようになった。時には、半ズボン姿も（宗教上、肌の露出は禁止となっている

イスラム教徒は、1日5回メッカに向かって祈りを捧げなければならない。その祈りを捧げる場所“モスク”がいたるところにある。このモスクには塔が必ずあり、そのてっぺんには三日月が…。また、夜になると窓から怪しい光(緑や白)を発している。祈りを捧げている時間は、すべての店が閉まる。出かけるときは、必ず時間を確認する習慣が付いた。



(4) 暮らし

水と緑の不足がちな国と思われるが、生活用水は海水を淡水化したものが供給され、上下水道も整備されている。また、街路樹も計画的に植えられ、緑化も進んでいる。

近代的なビルや交差点(ラウンドアバウト)に点在する芸術的なモニュメントは、近代化へ変貌する姿をまさに象徴している。



地球儀のモニュメント



紅海でのシュノーケリング

街周辺の海岸には名高いプライベートビーチやリゾートが数多くある。紅海のサンゴ礁や海の生き物を大いに楽しめるダイビングスポットとしても有名である。

過酷な気象条件などの理由から夜型社会となっている。一日の最後の礼拝後、だいたい20時以降は、主要幹線道路沿いのモールなど大勢の客で賑わう。特に週末は大変な混雑となる。大人だけではなく、子どもも一緒である。深夜0時頃まで営業している。

このモールへ買い物に行くと、一通り何でもそろえることができるのでよく利用した。



交通手段は車だけである。すぐ近くでも歩かずに車で出かける。気温が高いからだと思う。その車の運転が雑というか荒いというか、ルールがあってないような感じである。「危ない!」と感じたことが幾度もあった。

サウジアラビアで生活するためには、まず“イカマ”と呼ばれる身分証明証の申請をしなければならない。これを取得しないことには、あらゆることが先に進まない。給与を送金してもらおう銀行口座の開設や自動車免許証の取得、車の購入などができないのである。また、生活の中で掲示を求められることがあり、常に持ち歩かなければならない。私の場合、このイカマ取得までに約1ヶ月かかった。



“イカマ”と呼ばれる身分証明証

“ラマダン”とは、ヒジュラ暦の第9月のことをいう。この月の日の出から日没までの間、イスラム教徒の義務の一つ「断食（サウム）」として飲食を絶つことが約1ヶ月行われる。この期間の日中は、ほとんどの店が閉まっていて、仕事も思うように進まない。特に飲食店は日没近くにならないと開かない。

サウジアラビアに住むイスラム教徒以外の人、この断食をする義務はない。しかし、イスラム教徒の目の前で飲食を避けるなど配慮が必要である。また、社会はラマダン一色なので、それにあわせて生活をする必要がある。

(4) 治安

サウジアラビアは、イスラム教の聖地マッカおよびマディーナを守護するという関係から、宗教上の戒律をムスリム以外の居住外国人に対しても適用し、種々の規制を強いるので、外国人には生活しにくい国となっているが、その反面、犯罪に対してはイスラムの法規（シャリーア）に則って厳しい刑罰を適用するので、これが犯罪発生の大きな抑止効果となっている。

ジッダでは、人口の約半分を外国人労働者が占めていると言われている。また、最近のアフリカ諸国等の国内情勢を反映して、巡礼に來たまま不法滞在する者が後をたたないなど情勢の不安定化につながる要因があることは否定できないが、市内では治安警察や交通警察、宗教警察が数多く巡回警戒に当たっているため、一般的な治安は安定している。

3. ジッダ日本人学校の概要

(1) ジッダ日本人学校の歴史

ジッダ日本人学校は、在サウジアラビア日本国大使館附属ジッダ日本人学校として、昭和50(1975)年10月1日に開校したのが始まりである。しかし、実際には、その6年前に、当時の大使館員、日本人会の努力で日本人学校が開設されていて、それが基盤となり全日制日本人学校であるジッダ日本人学校が誕生した。

ジッダ日本人学校は、今年度で39年目を迎え、平成26年4月現在の児童生徒数は、小学部7名、中学部1名の計8名である。文部科学省派遣教員は5名、アラビア語、英語、図工(美術)、家庭(技術・家庭)の現地教員3名の計8名で教育にあたっている。校舎の周りは住宅地で囲まれ、隣には「ダル・ジャナ インターナショナルスクール」という学校もあり、比較的落ち着いた雰囲気のある地域にある。校舎の窓からヤシの木を眺めることができ、ゆったりとした雰囲気の中で、子どもたちは学習をしている。



(2) 特色ある教育活動

今年度、「学校紹介リーフレット」が完成した。そのリーフレットには、ジッダ日本人学校の特色ある教育活動（素晴らしいところ）が、とてもよくまとまっている。概要は下記の通りである。詳細については、7ページ以降にそのリーフレットを紹介しているので、参考にいただければと思う。

① 母国語である国語を基盤とした「日本の教育」

- ア. ジッダでも日本の教育を
- イ. 母国語である「国語の授業」の充実（写真1）
- ウ. 学力テストの実施
- エ. 充実した読書環境

写真1



② 充実した英語教育

- ア. 英語検定合格者多数(平成25年度)
- イ. 週4時間の英語の時間
- ウ. イマージョン教育の推進
- エ. 朝の英会話・英語でしゃべらんち
- オ. 多くの実践の場（写真2）

写真2



③ 少人数だからこそできるたくさんのこと

- ア. 基礎基本の定着・個性の伸長（写真3）
- イ. 表現活動の充実
- ウ. 異年齢集団の中での成長
- エ. 他校とのWEB交流
- オ. 食育の充実

写真3



④ ジッダならではの教育

- ア. アラビック（写真4）
- イ. 泳力の向上
- ウ. 遠足・社会科見学
- エ. 全校児童生徒で行く修学旅行

写真4



⑤ 伝統ある日本文化の体験

- ア. 和太鼓・三味線などの演奏、発表（写真5）

写真5



5. おわりに

ジッダ日本人学校は、小中併設校である。私が赴任した当時（平成 23 年度）も、今年度と同じ 8 名でのスタートだった。非常に小さな学校である。しかし、児童生徒数の割合に対して学年数が多いという極めて稀な学校でもある。

この 3 年間、私は小学校 3 年生から中学校 3 年生までの理科を主に担当した。初めて理科室を見たときのことは決して忘れない。本当に衝撃的だった。後片付けもされず机の上に置かれたままの状態の教材・教具。煩雑に整理されている棚。お世辞でもきれいとは言えない状態だった。また、教材・教具を一つ一つ手に取ってみると、さらなる驚きがある。私が小・中学生の頃に扱っていたようなものがほとんどであった。今となればよい思い出である。



ジッダ日本人学校では、「学年間の系統を意識した学習指導」をすることができた。よく耳にすることだが、なぜ大切にしなければならないのか身をもって知ることができた。また、限られた環境の中で、いかに学習指導を工夫していくのかいつも考えていたように思う。日本では、ほしいものは何でもそろえることができる。しかし、サウジアラビアではそうはいかなかった。教材・教具を開発することは日常茶飯事である。ものの有難さを感じたと同時に、ものを大切にしなければならないことを改めて実感することができた。

国際理解教育の研究を長年続けてきた私だが、これまで続けてきた研究を生かした授業実践を、サウジアラビアでも続けることができた。特に、イスラム教の中心地として、社会的制約が多いここサウジアラビアで生活をしている児童生徒の考えを、大いに引き出すことができた。また、言うまでもなくサウジアラビアの文化及び習慣、気候等は日本と大きく異なっており、日本と比較する活動をすることで現地理解へとつなげることができた。併せて、日本についても改めて見つめ直すよい機会になった。



サウジアラビアで経験・体験したこと全てが、私自身の大きな財産となった。この地で培ったことを、今後の生活にしっかりと生かしていきたい。

「ここがすばらしい！ジッタ日本人学校」

ジッタ日本人学校の「5つのすばらしいところ」をご紹介します！！

その1:母国語である国語を基盤とした「日本の教育」



★ジッタでも日本の教育を

日本人学校では、文部科学省の学習指導要領に基づいた教育活動をしています。日本で使われている教科書を使い、海外にいても、日本と同じ(それ以上の)「日本の教育」を受けることができます。将来日本に帰国する場合も、日本の学校にスムーズに順応できるようにしています。

★母国語である「国語の授業」の充実

母国語である国語教育は日本の教育の基盤です。学習指導要領でも、これからの教育において、国語教育の大切さが説かれています。ジッタ日本人学校では書写の時間も含めて「小学部：週5時間以上」「中学部：週4時間」を配当し国語の授業を充実させています。毎年実施する漢検でも多くの合格者を出しています。



★学力テストの実施

中学部は年間8回の学力診断テスト、小学部は年度末にNRT(集団基準準拠検査)を実施しています。児童生徒一人一人のテスト結果を、日本全国の基準と比較して、相対的にみることができます。中学部は志望校判定も実施しています。

★充実した読書環境

ジッタ日本人学校にはたくさんの日本の図書があります。毎年、各学年に応じた新しい図書も購入しており、今後も充実させていく予定です。また、毎朝の登校後、約10分間は「朝の読書タイム」を設定しており、継続して読書に取り組んでいます。



その2: 充実した英語教育

★英語検定 合格者多数 (H25年度)

年2回実施している英語検定でも多くの合格者を出しています。平成25年度は2回の英語検定で準2級2人、3級5人、4級6人、5級3人が合格しました(本校在籍児童生徒、延べ人数)。ジッタ日本人学校では、以下にお示しするように英語教育も充実しています。



★週4時間の英語の時間

外国語講師が担当する英会話(週2時間)、本校の英語教諭が担当する英文法(週2時間)があります。より児童生徒の実態に合うように習熟度別(自己申告)にし、丁寧な英語指導を行っています。

★イマージョン教育の推進

イマージョン教育とは、一般教科を外国語で学ぶことです。平成26年度からは図工科などの技能教科で、英語での指示や説明を聞いたり、友達と会話したりして、動きとともに英語に親しむ環境をつくる予定です。



★朝の英会話・英語でしゃべランチ

朝の8:15~8:25までの10分間は、朝の英会話の時間を設定しています。習熟度別に楽しみながら、継続して英語を学んでいます。また週に1回程度で、英語で楽しく会話しながらランチを食べる「英語でしゃべランチ」を実施しています。

★多くの実践の場

ジッタではほとんどの場所で英語が通じます。「遠足などでのランチの注文」「お店でのお買い物」「社会科見学での質問感想」など、英会話を実践する場を多く設定することで、学校で学んだ英語を活用し、生きた英語を身に付けることができます。



その3:少人数だからこそできるたくさんのこと



★基礎基本の定着・個性の伸長

少人数であることで、大規模校にはできない数多くの丁寧な指導が受けられます。学習における一人一人の長所や課題をみとり、その子に合った指導をすることで、基礎基本の定着や個性の伸長を実現していきます。

★表現活動の充実

学習発表会や児童生徒会の行事などで、一人一人の発表する機会が多くあります。それらの場で発表の仕方や技術を実践的に学んでいくことができます。お昼休みのプチコンサート・プチ発表会、朝のスピーチなどなど、様々な場面で子どもたちは輝いています。



★異年齢集団の中での成長

小学1年～中学1年までの幅広い年齢の子どもたちが、一緒に学校生活を送る中で、それぞれの年齢の役割を自分で見出し、成長しています。高学年の低学年に対する思いやり・配慮、低学年の高学年に対するあこがれ、尊敬する気持ちなどが自然に生まれています。異年齢集団での具体的な活動としては、児童生徒会やクラブ活動（平成26年度から）でいろいろなイベントを企画・運営していきます。

★他校とのWEB交流

様々な友だちとの交流や多様な見方、考え方を育てるために、より多くの子どもとかがかわる機会を設定しています。平成25年度はリヤド日本人学校とのWEB交流会を定期的の実施しました。今後、他校との交流や、学年単位での授業も行っていく予定です。



★食育の充実

ジッダ日本人学校の昼食は弁当です。学期ごとに一度「自分で作る弁当の日」を設定し、保護者の皆様のご協力のもと、児童生徒一人一人が弁当づくりにかかわることを計画、実行します。平成25年度に実施した際には、栄養バランスの大切さやお家の方の大変さに気づき、多くの児童生徒が感謝の気持ちを感想に書いていました。また、学級活動でもそれぞれの学年に合わせた「食に関する指導」を計画しています。

その4:ジッダならではの教育



★アラビック

週に1時間、サウジアラビアの母国語である「アラビア語」を学んでいます。またそれと同時にアラビア文化にも触れる場をつくっています。イスラム教についての学習をしたり、現地の道具などに触れたりして、体験的に学べる時間を狙っています。

★泳力の向上

過酷な暑さの夏の体育学習では多くの時間を使って「水泳」に取り組みます。毎年、全員が泳ぎ始めたころの記録から大幅に躍進しています。水泳大会では「自由形」「平泳ぎ」で大人顔負けの泳ぎを見せてくれます。



★遠足・社会科見学

毎年、美しい紅海を満喫する遠足に行きます。深い青色の海、色とりどりのサンゴ礁や魚たちを目の当たりにして毎年大感動です。

現地で活躍されている日本企業の会社や工場など、毎年2回以上の社会科見学を実施しています。

★全校児童生徒で行く修学旅行

平成25年度は修学旅行としてサウジアラビアの首都「リヤド」に行ってきました。親元を離れて、友達や職員と一緒に一泊しました。見るもの全てが新鮮で非常に有意義な活動になりました。平成26年度も実施する予定です。



その5:伝統ある日本文化の体験



★和太鼓・三味線などの演奏、発表

音楽の授業や休み時間を利用して、和太鼓や三味線（三線）の演奏に取り組んでいます。平成25年度は日本人会祭り、コリアン校との交流会や国際子どもフェスティバルなどのたくさんの場面で、「ソーラン節」「豊年太鼓」「さくら」「きらきら星変奏曲」「こきりこ節」などの様々な演目を発表してきました。

HPで日々の生活の様子も随時発信しています。是非ご覧ください。
<http://www.geocities.co.jp/NeverLand/3248/>

是非、日本人学校にご入学ください！！教職員一丸となって全力でサポートします！！



JEDDAH JAPANESE INTERNATIONAL SCHOOL

Al-Rawdah 5 Abudullah Al-khraiiji St.(1012)
P.O.Box 1235 Jeddah 21431 Saudi Arabia
Tel : +966-12-664-3437 Fax : +966-12-664-2963
E-Mail : jjssa@awalnet.net.sa